稲敷市学校及び幼稚園適正配置検討委員会第2回委員会

日時:令和6年9月12日(木)18時半～

場所:稲敷市役所3階331会議室

■検討委員会委員（順不同）

出席（27名）：尾崎利生委員（会長）／寺崎久美子委員（副会長）／根本光治委員／飯塚敏委員／亀山浩二委員／小松原剛委員／鴻巣伸二委員／田村慎太郎委員／篠崎和治委員／廣田磨美委員／宇津木裕委員／黒田式子委員／栗山忠委員／根本照美委員／内藤信委員／宮本真由美委員／高柳あゆみ委員／坂本絵美委員／高野貴世志委員／篠田純一委員／中山浩一委員／高本昇委員／糸賀安志委員／田所妙子委員／磯山寿美委員／内藤のぞみ委員／糸賀妙子委員
欠席（2名）：佐久間信幸委員／黒田真由実委員

■第2回の委員会

1 開 会

2 会長あいさつ

会長：本日の第2回適正配置検討委員会も皆様勤務後の遅い時間の開催となりましたが、多数の出席をたまり感謝申し上げます。さて、第1回委員会では、(1)稲敷市立小中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針について、(2)アンケート調査について、確認、検討することでした。第1回委員会では、発言者それぞれが具体的な問題状況について述べられ、検討課題も多岐にわたることが明らかになりました。とりわけ、アンケート調査については、問いの見直しの必要性、対象者についても再検討の必要性が論じられ、事務局において、見直し案が第2回適正配置検討委員会に再提出されることになりました。本日の第2回委員会では、学校再編パターンの検討、見直されたアンケート調査について検討することになります。委員の皆様、事務局の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

3 協議事項

1) 学校再編パターンの検討について

《資料1説明（事務局）1～2説明》

会長：1～2までの説明が終わりました。ここでは、稲敷市立学校の現況と6年後の児童生徒数について説明がありました。ただいまの説明に対し、ご意見、ご質問がありますでしょうか。

（意見なし）

無いようなので、続けて説明をお願いします。

《資料1説明（事務局）3～5説明》

会長：3～5までの説明が終わりました。ここでは、市が目指す学校の適正規模や適正配置の要件がお分かりいただけたかと思います。ここまでの説明について、ご意見、ご質問等がございましたら、挙手の上、ご発言願います。

委員：ご説明ありがとうございました。3番の学校の適正規模について質問させてください。私の記憶では、小学校18学級、中学校15学級が適正の規模だと勉強してきました。なぜかという2学級では学年主任がつかないのではないのでしょうか。退職してしばらくたちますが、いつ変わったのか、お願いします。

事務局：ご質問にお答えいたします。適正規模に関しましては、学校教育法施行規則第41条で決まっております。法律上の小学校の規模は12学級以上18学級以下を標準とするという文言です。こちらの説明文では12学級以上ということで表記したのですが、法令上の基準は今述べたとおりです。

会長：ありがとうございます。ただいまの説明でよろしいでしょうか。ほかにご意見、ご質問はございませんか。

会長：ないようですので、続けて説明をお願いします。

《資料1説明（事務局）6以降説明》

会長：学校再編のパターン案が説明されました。1つ目として、市内に1つの小学校と1つの中学校に統合する案、2つ目として、市内を東西の地区に分け、2つずつの学校に統合する案、さらに、まず東西2校に統合を進め、最終的には1校に統合することも考えられるのかと思います。ご意見のある方は、挙手の上、ご発言願います。

会長：いかがでしょうか。

委員：このパターンについては、今日この会議で決めるのでしょうか。次のスケジュールを見ると、再編パターンの検討は、もう予定地とか校舎の改修等についてとなっています。私個人の意見では、今示された事務局の案というのはすごく分かりませんが、ただ、今はちょっと即答もできないですし、時間がかかるのかなと思います。

事務局：ご意見ありがとうございます。事務局としましては、本日この案について、どちらか選んでいただくとか、ほかに案があればお伺いしたいと考えておりました。今回、学校の数について検討して決めていただき、次は場所の提案をさせていただこうと思っておりますので、本日できれば決めていただければと思っております。

会長：ただいまの説明について、ご質問ありますか。

委員：ここで仮に決まったとしたなら、アンケート調査をする意味がないと思います。決まらないとは思いますが。

事務局：まず、検討委員会の委員については、教育長から委嘱または委任されてお集まりいただいているので、この検討委員会で決めていただくことが一番重要なことと思います。アンケート調査は、こちらの基礎資料として、広く市民の方から意見を頂戴したいという意味で行うものです。アンケート調査結果の意見と委員会の意見に相違があったからといって、アンケート調査結果の意見に流れるということはありませんので、ご理解いただきたいと思っております。

委員：前回の委員会で具体的な方向を示していただき、それからアンケート調査を行う形がよいという話が出たと思います。私は今、説明を聞いていて、具体的で分かりやすい案ができたと感じ、決定ではなく、市民に開示する「案」という認識を持っていました。委員会としてこのような案を決めて進めていこうとしているということで、案に対して市民から

意見をもらい、良い意見があれば取り入れていけばよいと思います。この場で決めたものが最終決定ということではないと思って聞いていましたが、執行部から見ると、私の認識が違っているのでしょうか。回答を聞きたいと思います。ここで決めてしまうということであれば、アンケート調査をする必要はないと思います。

事務局：ご質問にお答えします。今の説明だけで、この場ですぐ決めてくださいというのは確かに無理があるものと思います。我々の案ということでパターンを示しましたので、案について、修正やほかの考え方があれば、案に反映することもできますし、今日この場ですぐ決定してほしいというわけではなく、ご意見を頂ければと考えております。

委員：個人的には、具体的な案を示してもらい、分かりやすくよいと思います。ただ、市民にアンケートを取るのであれば、グラフは見づらいので、何年で何クラスというように具体的な表で示すべきだと感じました。箱ものをいろいろやることも必要なのでしょうから、最終的には、議会で市長の決裁が必要だと思いますので、私は、今の段階では案という認識を持っていますが、それでよろしいでしょうか。

事務局：ご質問にお答えいたします。今日、案を2つ示させていただきましたが、皆さんのご意見をいただき、最終的には委員会から教育長に対して答申をいただく形になります。例えば、東西1小中学校ずつが最終的な案となったとして、どこにするのか、いつまでにするところを答申書でいただきたいと考えております。ですので、今日はこのパターンに対し、ご意見を頂き、委員会としての方向性をある程度お示しいただきたいと考えております。教育長に答申いただいた内容を基に、最終的には学校の設置者である市長が判断をし、議会に説明し、承認をいただくことになるとと思いますので、最終的な決定ではなく、委員会としての方向性を出させていただきたいと思います。

会長：ありがとうございます。

委員：パターンとして1つ追加できるのではないかと考えます。資料が丁寧なので、旧町村に1小1中は無理だということは当然分かります。2小2中でやっていくのも分かります。ただ、中学校は最初から1つで、小学校を東西に分けた2校で進めていくのも、中学生と小学生の人数から考えるとあり得るのではないかと、そのパターンが抜けているかなと思います。一番良いのは人口増が望めることですが。

会長：ただいまの意見について、事務局から回答をお願いします。

事務局：ありがとうございました。確かにその案もあると思いますので、こちらで検討する案として盛り込みたいと思います。この後の説明となりますが、アンケート調査にも同じようなパターンを示していることで、検討委員会として必要ということになれば、アンケート調査にも盛り込ませていただきます。

会長：そうするためには、ただいまのご意見に賛成かどうかという委員会としての議決は必要ですか。

事務局：委員会としての意見として頂きたいので、承認を頂きたいと思います。

会長：はい。ご意見がほかにあるようですから少しお待ちください。

委員：2小2中に分かれた場合、中学校は9年後に小規模校になり、小学校も16年後ぐらいに小規模になりますので、やはり最初から1中にしたほうがよいのではないかとと思います。通うのにもどちらにしてもバスなどの通学路で行くと思うので、時間がかかってもバス

でなら1中のほうがいいかなと思います。

会長：ありがとうございます。ただいまのご意見は、小学校2、中学校1で、先ほどのご意見と同じですね。

委員：丁寧な説明をありがとうございました。児童生徒数で見た時のシミュレーションがよく理解できました。私は中学校2つがいいかなと思っています。やはり東西が20キロというお話がありましたが、1つは、すごく広いなという部分と、中学校は部活動などを考えた時に、1つになってしまうと練習試合などは市外に出るしかなくなります。20年後、部活動がどうなっているかは分かりませんが、そういった感じは持っています。ただ、もう1つは、中学校にはクラス数による教員の数、教員免許の教科ごとの配当数のようなものの基準が決まっています。3学年で8クラス、3、3、2。それ以上になると、国語、社会、数学、理科、英語は2人ずつ教員が配置できるようになります。音楽、美術、体育、技術・家庭は1人ずつかもしれません。少しでも中学校の教科部会、国語の先生同士が校内で話し合えるなどというのは、組織にするためには8クラス以上必要。先ほどあった適正規模の9クラスであれば、そういった配置ができるということで行けば、中学校1つのほうが将来的にはいいかなという考えもあります。私自身、今日どちらかに決めなさいと言われると、教科の配当や部活動のことを考えると非常に悩ましく思います。

会長：決めるということですが、これは一つのパターンですので、東西に中学校1、小学校2ずつというパターンにするか、それとも小中まとめて1校ずつという、その2つの案を出しているわけです。事務局は、何か追加の説明はありますか。もし、なければ、一旦ここで休憩を挟みたいと思います。よろしいですか。休憩前に何か言っておきたいという方はございませんか。

委員：検討案の作成をありがとうございます。この委員会のゴールは答申書の作成と提出だと思いますが、今日のゴールはどこになりますか。ゴールを決めないと、だらだら検討が続いてまとまらないのではないかと心配です。

事務局：事務局としては、今日説明したパターンでどれが一番良いかを決めていただきたいのですが、今ご意見の中で、小学校2つ、中学校1つというお話もありましたので、そのあたりをまず、パターンの中に組み入れるのかどうかということを検討していただき、今2つのパターンのところ、3つで検討し直しましょうというのであれば、再度アンケート調査なども修正する必要が出てきますので、最初にそのあたりを決めていただければと思います。

会長：ほかにありますでしょうか。

委員：それぞれが意見を言い合う場面であると思いますので、そういう視点から申し上げます。まず、一番肝に銘じなければならないのは、この人数は特別支援学級の子どもらが入っていないこと。ということは、各学年、この人数よりも4%程度減るのが大体ですので、数字のマジックといいますか、そこらへんはよく検討する必要があります。それを見越して学級はできますので、今、どの学校でも大体特別支援学級が2学級ないし3学級でありますので、そこらへんも頭のどこかには入れて、これより少なくなるのだということは押さえて議論する必要があります。

会長：ありがとうございます。

事務局：確かに生徒児童数という単純な数で今回の案は作成していますので、ご指摘の点が抜けています。今ある生徒児童数よりももう少し減った数になってくるかと思います。

会長：ありがとうございます。

会長：では、休憩を挟みたいと思います。

(休憩)

会長：では、再開したいと思います。

先ほど中学校1、小学校2という案が出ましたけれども、それについて、もう一度事務局のほうから説明いただけますか。

事務局：説明はまだなのですが、アンケート調査を見ていただきまして、問2でパターン意見を聞くような内容となっております。その中で、今ご説明した小学校1つ、中学校1つ、小学校2つ、中学校2つというものが図示されておりまして、それ以外という選択肢もごございますので、こちらのほうでご意見を聞いているということで、改めて中学校1校、小学校2校で聞くのではなく、この設問の中でお伺いしたいということで、そのような整理でいかがでしょうか。大変申し訳ないです。

会長：先ほど、中学1校、小学校2校というパターンがあってもよいのではないかということでした。それについては、アンケート調査の中で、上記以外の校数というのを聞いているので、それで特に中学1校、小学校2校というパターンは入れないこととしたいと思います。いかがでしょうか。

委員：こちらのアンケート調査用紙だと、保護者に配った際に、多分、図しか見ないと思うので、ほかの意見が出てこないと思います。小学校2校、中学校1校というふうに記載する保護者は多分なかなか出てこないと思うので、図に表したほうが分かりやすいと思います。

会長：ただいまの意見について、事務局はいかがでしょうか。

事務局：ご意見にお答えします。そもそも事務局で考えた案としては、小中学校が同じ敷地内か近隣に所在したほうがいいだろうというものです。というのは、災害が起きた際、兄弟で小中のお子さんがいらっしゃるご家庭の場合、例えば、中学校1校で、小学校2校にした場合、中学校はどうしても中心地であって、小学校は東西に分かれてしまうので離れてしまう。それを回避するのに、こういう案を出しています。中学校1校、小学校1校、中学校2校、小学校2校。これはもっといえ、近隣のところに小中学校、または同一敷地内に小中学校というのをイメージしておりましたので、そういった意図もありますので、事務局でアンケートを考えた際に、このパターン以外もきっと希望される保護者はいるだろうということで、先ほど説明しました上記以外の校数ということで、小学校何校、中学校何校という欄を設けました。

会長：ただいまの事務局の説明について、いかがでしょうか。

委員：やはり図があると絶対こっちに誘導されてしまうと思います。欄があるから、自由記述だから書いてくださいといっても、今この場で1中2小がいいという意見が出たのであれば、それをアンケート調査項目に落とし込んで三択にしてもらってもいいと思いました。三択かつ自由記述となると、選択肢が広がるのかなと思いますが、難しいでしょうか。イエスカノーかでお答えください。

事務局：休憩前からのお話で、皆さまがどう考えているかというのをちょっと聞いていただければと思っております。

委員：アンケート調査項目に入れられるか、入れられないかをお答えいただきたいのですが、無理なんですか。

会長：それを決めるのは、事務局ではなくて、この委員会の決定で決まるわけです。絶対的な賛成があれば、1中2小というパターンも入れることになりまして、これで現在作られているアンケート調査の上記以外の校数を求める欄もあるので、それでいいという意見もあると思います。皆さんいかがでしょうか。委員の間で、どうしてももう1つパターンをつくるべきだと思われる方、挙手をお願いします。

(挙手)

会長：多数ですね。では、1中2小のパターンを加えてもらうということにしたいと思います。事務局、よろしいですか。

事務局：入れることは可能ですので、入れていきたいと思えます。

委員：今説明いただいた小学校、中学校1校ずつの場合のクラス数、それと小学校が2つ、中学校が2つでも同じですが、そのケースごとのクラス数とメリット・デメリットをどこかに書いていただくと、アンケート調査を取る時に参考になるのではないかと思います。参考資料みたいな形で追加してはどうでしょうか。

会長：まだアンケートの説明はされていけませんので、一応、事務局から説明をしてもらって、その後、ご意見を伺うことにしたいと思えます。

(2) アンケート調査について

会長：では、アンケート調査についてを議題としたいと思えます。事務局より説明をお願いします。

《資料2-1 説明（事務局）》

会長：ありがとうございます。ただいまのアンケート調査についての説明について、ご意見、ご質問等がございましたら、挙手の上、ご発言願います。

委員：これは分かりやすい調査だと思います。メリット・デメリットというのが、我々素人で考えたことと、プロの方が考えたことでは、いろいろ差があると思えますので、メリット・デメリットがあるということで挙げてもらうと、もっと回答しやすいのではないのでしょうか。

会長：資料1の10ページは、配られないのでしょうか。

事務局：はい。アンケートの際には委員の皆さまにお配りしている資料1の配布は想定していません。

会長：こういったメリット・デメリットというふうな表にまとめて付けてもらいたいと思えますが、いかがでしょうか。

事務局：資料2-1の裏面のグラフの下に米印で書いてあるのですが、メリットはそこに1つ書いてありまして、デメリットも入れたほうがよいということであれば、この部分に入れたいと思えますが、いかがでしょうか。

委員：メリットは1つだけですか。

事務局：資料と同じような形に付けた方がよろしいですか。

委員：メリット・デメリットはみんな知りたいと思います。資料の中に各パターンのメリット・デメリットの説明がありました。ただページを増やすだけで、この絵をそのまま貼ってもらえればすごく分かりやすいと思います。

事務局：前回のアンケートのご意見を伺った際に、参考資料としてそのあたりを付けたのですが、量が多いとか、時間のなかで回答できる内容ではないというご意見があったので、今回はこのように簡潔にしました。

委員：前はこういう具体的なデータはありませんでした。

事務局：すみません。そこまで細かいものはございません。

委員：このデータがすごく分かりやすい。米印に書いてあるというけれど、老眼でどこにあるか分かりません。

事務局：もし、メリット・デメリットを参考資料として付けたほうがよいということであれば、用意することは可能です。

委員：私1人の意見だったら別にいいのですが、皆さんがどう思われているか分からないので、皆さんに聞いてください。

会長：それでは、アンケートの中にメリット・デメリットを付けたほうがよいというご意見が出ております。委員会としてはどのような判断にいたしましょうか。

委員：メリットについて、10 ページで、専科教員の配置や全教科で教員配置が可能になるということなのですが、今はできていないんですか。

事務局：お答えします。中学校については、クラス数によって各教科の先生方の配置の基準が決まっています。6学級以下になると国の基準としては、技術・家庭については、技術の先生は付きますが、家庭科の先生が付かなくなります。7学級以上あれば全教科の先生が最低でも1人ずつ付きます。先ほどあったように8学級以上になると、主要教科はどの教科も2人ずつの先生が付くようになりますので、学級数が増えると配当される教員定数も増えていくようになっています。今、6学級の中学校もありますので、全学科の先生がそろっておらず、特に技術・家庭の先生が1人ずつということで、技術や家庭科の先生が別の中学校に出向いて授業を教えるという形で兼務している学校も出てきています。

会長：理解いただけただけでしょうか。大丈夫ですか。ほかに何かございますか。

委員：いろいろ検索したところ、アンケート調査の中で小中学校の先生方の適正規模に対する意識調査というものが、他自治体では行われています。この適正配置には、先生方に対する意識調査も必要ではないかと思います。それから、先の話になりますが、第3回では校舎の予定地などを検討するということがここで出ていますが、まだどうなるか分からない中で、この委員会で予定地まである程度聞いていくというのはちょっと乱暴過ぎるのかなと考えますが、いかがでしょうか。

会長：ただいまのご意見について、事務局からお答えいただけますか。

事務局：先生方のアンケートに関しては、実施することは可能です。他市町村で実施しているところは承知していますので、委員会のほうでアンケートを取ったほうがよいということであれば、こちらで用意させていただきます。

事務局：執行部のほうで可能であれば、校長先生方がここにいらっしゃいますので、適正配置に

についての意識調査ということで、先生方に可能かどうかお聞きしてよろしいですか。

委員：全く問題ないと思います。

事務局：もう1つのご質問について、次の会議で場所まで決めていくのはあまりに乱暴ではないかというお話なんです。事務局としては、今日どのパターンがよいか委員会からご意見をいただいて決めていければと思っておりましたが、これまでのお話を聞いていると、なかなかそうもいかなさそうなので、全体の会議スケジュールを再度見直したいと思います。今日は、皆さんがどういう意見なのかを聞ければいいかなと思います。

会長：3パターンになったのですが、その中で皆さんとしてはどういうパターンがいいかというご意見を聞いて、アンケート調査の選択項目の内容も先ほど追加しました。アンケート調査は、先ほどのメリット・デメリットを入れて、3パターンを問うという形で実施してよろしいでしょうか。

委員：アンケート調査に回答する立場として、私は今この書類を見ているから、追加されるグラフもすぐ理解できるんですが、実際何も知らない状態でこれを出されて書くとなった時には、「へえ、減ってるんだな」ぐらいにしか多分思いません。自分の子どもがいつ、どこの地区というのは見ればすぐに分かりますので、すごく現実味があって、真剣にアンケート調査内容を読んで回答しようという気になるというのが私自身の意見です。秘密にすることでもないと思うので、人数も入っているといいのかなという意見です。

会長：ただいまのご意見について、事務局から回答をいただけますか。

事務局：ご質問にお答えします。人数については、公開している情報ですので、アンケート調査に入れることは当然可能です。

委員：追加意見です。以前検討していた話が流れていますが、保護者間では、またこれは本当に進むのかなというのが正直思うことで、決まらない限り何も決まらないのは分かりますが、おおよそ何年度を目標にしているという情報があれば、保護者も自分の子どもが実際に関わるのか、関わらないのかというのはかなり大きなことであって、正直未就学児の話だと思います。特に第一子だと、小学校の状況を全く分からない状況なので、より現実味で伝わるとよいのではないかと思います。

事務局：ご意見ありがとうございます。今までも新利根地区や桜川地区で統合をしてきていますが、今度は市全体で統合を協議していただいています。どのぐらいを目途にというのは、事務局の考えですが、5年、6年ではできないと考えています。10年以上のスパンのお話になってくると考えているところです。アンケート調査の中で統合の時期のタイミングも伺っていますが、ここにいらっしゃらない保護者の方がどういうお考えであるかということも聞いてみたいので、入れさせていただきました。

会長：一つずつ解決していきたいと思うのですが、メリット・デメリットを入れるということについては、賛成いただけますか。

(賛成)

会長：事務局のほうで入れてもらいたいと思います。これは皆さんに配られていますが、パターンの検討の2ページ、令和12年度の数を付けてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。事務局、大丈夫ですか。

事務局：2ページの表に関しても、公表できない情報はありませぬので、アンケートの資料とし

て付けることはできます。

会長：先ほどご質問のあったことは、それで理解いただけますか。委員会の意思としてはそれではよろしいですか。反対の方、いらっしゃいますか。

(なし)

会長：なければ、この表を付けるということにいたします。教職員へのアンケートは、後日実施できますか。委員の皆さんはそれで賛成していただけますか。

(賛成)

会長：では、教職員についてもアンケート調査を実施してもらうように事務局、よろしくお願ひします。第3回目に小中学校の予定地というのが入っているのですが、アンケート調査を作り直して実施するということになるかと少し遅れるかと思ひます。それで予定としては大丈夫ですか。

事務局：ご意見をいただきましたので、アンケート調査票は修正して作り直します。それに伴ひまして、会議スケジュールについては、内容と日程は変更せざるを得ないと考えております。再度検討し、またスケジュールはお示しします。アンケート内容についても修正したものをご覧いただきたいと考えております。

会長：アンケート調査は、いつごろを目指して行われますか。

事務局：アンケートの修正にはそれほど時間はかからないと思ひます。修正したものは、郵送して委員の皆さまに内容をご確認いただき、何かあれば連絡をいただくことでよろしいか、それとも、会長・副会長に確認をしていただき、調査を実施させていただくこととするか、伺いたいと思ひます。

会長：自分で確認したいとおっしゃる方はいらっしゃいますか。特にご意見がなければ、我々のほうで確認するというにしたいと思ひますが、よろしいですか。

(意見なし)

会長：ありがとうございます。

事務局：ありがとうございます。教職員のアンケート調査もそのような形でよろしいか、それとも皆さんにご覧いただいたほうがよろしいでしょうか。

委員：少し遅れるかなと思ひますが、どうですか。

会長：すぐ実施できますか。

事務局：そちらのほうは少し時間がかかると思ひますので、よろしければ、次回の委員会の際に見ていただいて、判断いただくことではどうかと考えておりますが、いかがでしょうか。

会長：先生の意見について、どうでしょうか。よろしいですか。では、校長先生を中心に見てもらおうということをお願いしたいと思ひます。その点よろしくお願ひします。

委員：メリット・デメリットを追加していただけるとのことですが、先ほど、災害時のお迎えに1小1中、2小2中だといひというお話がありましたが、保護者という立場から考えると、とてもいいことだなど、それは文章として自分で見てアンケート調査の結果を出したほうがいいと思ひたので、可能であれば、そのことも文章の中に入れていただけると、実際災害が起きた時に迎えに行くということを頭に置くことができているのかなと思ひました。

会長：事務局は特に何かありますか。なければ、その他に移りたいと思ひます。

2 その他

会長：最後に、その他として、ご意見、ご要望などございましたらご発言願います。

委員：その他ということで1つお願いします。学校再編パターンの5ページを見ながら、アンケート調査の1ページ真ん中を読んでいたのですが、学校は既存校を改修増築して使用することを想定していますとのこと。5ページの浸水想定水深を見ていると、第3回以降の会議に出る時の下準備の都合もあるので、既存校を改修増築して使用する、小中1校ずつ、小2・中2、どこらへんを想定しているのか、浸水状況の危険マップを見ながら探すと、該当するところは既存校であるのかなという気もするので、そこらへん、どういう捉え方をしているのか教えていただけると、会議に出る時、自分なりに準備してこられるかなと思うので、お願いします。

会長：その点について、事務局からお答えいただけますか。

事務局：事務局としては、1小1中とか、2小2中、今回2小1中でいろんなパターンが考えられると思っております。どのへんを想定しているのかというのは、まだはっきり決められていないので、委員会の皆さまのご意見をまず頂きたいと思います。候補地の選定に当たっては、そのパターンをお示しして、その中から皆さんのご意見を頂いて決めていく手法を取りたいと考えております。

委員：それは逆ではないですか。そちらで案を出していかがですかと、我々素人にそういうことを聞いても分かるわけがないでしょう。

事務局：まず、パターンが幾つかあります。今回3パターン、義務教育校を含めると5パターンになるので、それごとに事務局の案をお示しして、それで、と思います。

委員：私は、建物予定地とか建物どうのこうのと先の案が出ていて、もう長期の計画、案があって、その案をある程度頭に置きながら、こういう勘定をしているのかなと見ていたわけです。長期計画というのはいないんですか。もし、あるのであれば、その案を出していただいて、こういう案を今考えているのだけれども、皆さんの意見を聞きたいというのであれば、私らも言いやすいわけです。今言われた回答では、そのへんが今は何もなくて、今から我々の意見を聞いて、今からやりましょうというような話だと取れましたけれども、それでは逆ではないのかなと私は感じます。

ある程度長期で、市長が替われば方針も変わるのでしょうが、目の前の問題、子どもがいなくて再編をやるしかないということが目に見えて分かっているのだから、長期でそういう検討をされているのかなと、場所にしても小学校、中学校の数にしても、ある程度こういう方法が今のところ市として考えたらベストかな、それなら、こういうふうな青写真で、皆さんにご意見をもらっていきかなという流れなのかなと思っていました。そうではないんですね。我々では、具体的にどこにしますかなんて、打ち合わせをやっても、どう考えても決まりません。既存の校舎を増改築して使いたいというのと、いろいろ距離の問題など出てくるでしょうから、そういうのをここで検討しても答えは出てこないでしょう。どう思いますか。

事務局：お答えいたします。今日3パターンあります。その中の1つのパターンに絞っていただくと、こことここというのも絞れてきますので、今、市内に小学校1校、中学校1校にし

ようというパターンになれば、ここはどうでしょうかという話になりますが、その前段なので、そこらへんで検討させていただきたいと思っております。

委員：おっしゃるとおり、聞いていても違和感があると思います。違和感は何かということ、結局この会議って、会議の仕方の話をするのもちょっと失礼ですが、例えば、どこかにスポーツ施設を造りましょうと、球場を造りましょうという時ならこの段取りの会議でいいと思います。あくまでもものがなくなっていく、統合していくならば、どうだといった時に、その違和感だと思います。例えば、私たちにそれを問うって、一番最初に出した案をどっちがいいんですか。次の集まった時には、今度は場所はどこがいいんですか。そうすると多分ここにいる方みんな思うんですけど、責任転嫁されてると思っております。おっしゃるように、本来は事務局で決めて、その中で、学校の先生方は学校のいい教育をどうだとか、その持ち前のポジションの方でご意見を頂きたいというのが、多分この会議が分かりやすい道だと思います。ものをつくるのと、ものが集約されていくという会議の仕方の根本的なところが違うのではないかと、そこに違和感があって、皆さんが困惑されていると思います。だから、何を聞いても、いや、これを出していただければ、どっちか決めてくれと、次やりますので、その責任を私たちが全部負うのかということ、いろんな意見を聞かせてください、いろんな意見を聞かせてくださいって、そこが決定事項になっちゃうわけです。いろんな意見を聞きたいというのも分かりますが、やはりそのあたりの整理をもうちょっと考えていただいて、違和感がないような会議の組み立て方をしていただければと思いますので、よろしくお願いします。

委員：言い方悪くて申し訳ありませんが、こういうような青写真がある程度できてます、我々は、いろんな方に意見を聞いてます、こういう会議をやってますというパフォーマンス、そういうのを知らしめるためにこういう会議をやっているのかなというふうに取り柄かねません。ある程度は決まってると思いますが、やっぱり市としてこういうふうなことをやってます、パフォーマンスもしてますという実績づくりのために我々は利用されてるのではないかなと、悪く言えばです。そういうことはないと思いますが、現に案があって、きちんとやられていると思うので、そういう案を当初ある程度当事者に出してもらって、それに対して、どうですか、いいですか、悪いですか、ほかに案はありますかという流れで進めていただけると、我々も素人ながらいろいろ悩んでも考えることができます。ただこれを出されてどうしましょう、どうしましょう、こういうのがありますって言われても、ちょっと意見出づらいです。

委員：ここに、平成 22 年の 3 月に出来上がっていた「稲敷市学校再編整備実施計画」というのがあります。この計画は、平成 31 年度までスケジュールが載っていて、平成 27 年のあたりから桜川小学校とかあずま小学校、中学校が統合の計画が記載されています。それが大分人口減少ということで、少子化の中で加速して、この計画どおりで全くいかない状況になったということですが、教育委員会のほうで、新たな長期計画が出ていないというのが現状ですか。皆さんご存じのように桜川小学校は統合して、本来ならあそこに統合して新たに議論をしながら計画がありました。浸水想定があったので、今の高台のほうに持っていったという経緯もありまして、東地区のほうは、最初は 2 つに残すという計画がここには示されていましたが、少子化で 1 校にするというようところで計画が変わって

いきました。この計画がここに載っている内容と大分変わってしまった。ですから、逆に今回もこういう計画をつくって、果たして5年後10年後にこの計画どおりやっていただけるのかというのが私のほうは、実態としては非常に違うのではないかとこのところがあります。基本的に書いてあるとおりに、東地区とかは小学校全部をもって統合し、新しい場所に学校新設等の検討をすることも書いてありますが、内容的に大分変わってきているので、先ほど意見があったようにやはり長期的な計画をもっと早めに出すべきかな、そのたたき台を出していただければ、こういう会議の中でももっといろんな意見が出てやりやすいところもあるのかなと私は思っております。

会長：本当に計画を策定したからといって、それをずっと実行しなさいということではないですから。どこの企業だって、中期計画というのはつくって、見直しを毎年やるし、期ごと、3カ年、5カ年、10カ年とやるのだから、そのあたりは策定したから何が何でもやるしかないからそんなのつくれないよというようなことは考えないでください。お分かりになってると思いますが。

事務局：いろいろご意見ありがとうございます。事務局としましては、今頂いた意見を十分に尊重いたしまして、次の会議でそういう形でお示しできるように精査いたしますので、よろしく願いいたします。

会長：ありがとうございます。ほかにございませんか。

委員：先ほどの話ですと、10年を目安というお話を聞いて、私は正直遅いと思います。10年を目安にしたら、資料2の裏側を見ると、もうおおむね1校です。これ、皆さんどう思われるか、またいろいろ話をするしかないと思いますが、数字的な裏付けもありません。10年後というのは。あくまでも昨年度生まれた子どもを算出して、令和12年にはこうなるよというのは分かりますが、だから私は最初話を聞いていて小2中1のパターンでいいかなというふうに思いました。その場合は当然、旧4町村の学区をもう一回見直して、それで小2に分けたほうが現実的だろうなと思っていましたが、10年後では、これ、議論の余地ないよ。おおむね1校、おおむね1校って出ていますから。そこらへん、委員の皆さんはどう考えるのかなってというのが一点目です。二点目は、前も言いましたが、私は教務、教頭、校長をすべて務めていますので、小学校、中学校の文化というのがあります。やはり義務教育学校は5年、10年前までは随分はやりました。でも、やっぱり違っただろうと。学校文化が違うんだよということで、義務教育学校をなくす動きが出てきました。つくば市は特にそうです。あれだけの教育最優先の都市でも義務教育学校はつくらない。だから、そうなってくると、稲敷市はさっきの話じゃないですが、小2中2、小2中1、小1中1かなというふうに考えます。

今度は校長の経験の立場から申し上げます。先ほども学年主任手当うんぬんの話がありました。学校は1学年3学級以上あると学年主任というのがちゃんと省令的に位置付けられて、学年内のいろいろな行事、庶務その他若手育成もやっていきます。非常に機能的にいい。ただ、今、なかなか小学校、中学校で学年主任が中心に学年経営をしていく、学年の子どもたちを面倒見ていくというのは、それこそ1中しかないはずで、だから、やはり学校の力、教育力というのは、人数がある程度多くないとそういう組織的なことはできない。もう一つ、2学級の学校というのも私も勤めたことがいっぱいあります。そ

うすると、4月6日に始業式が終わって子どもが帰ってくると、親は2学級だと必ず“当たり前”、“はずれ”やるんです。要するに大体学校というのはベテランの先生と若いので組みますから、そうすると、今年は“外したな”って平気で言います。私も随分教務、教頭時代に言われたことがあります、だからそこらへんを考えると、3学級の学年経営だと学年主任がいて、面倒見ながらうまくやっています。ここらへんは非常に内情を言ってるみたいで申し訳ありませんが、だから校長は言えません。そうなってくると、先ほどの中学校でいうと、教科うんぬんというのがありました。8学級以上だと5教科2人で、技能教科は1人。この技能教科1人というのも曲者で、具合が悪くなったらどうするのか。いないんですよ。講師が見つからないのです。だから定数はもう決められていますから、定数どおり集めるのも大変です。これは教育委員会の仕事ですけども、なかなかそこが集まらない。今、新聞でも、学級担任手当とか小学校でも3年生ぐらいから教科担任制どうのこうのなんてやっています。ほんとに通るかどうかわからない。でも、結局あれも全部講師の先生です。要するに定員で決められた教諭がやるものではない。講師は、集まらないです。学校の教務主任は教務やりながら担任やっています。今の先生も教頭もそうです。体調崩した先生がいたら、教頭、教務、校長も交代交替で授業やってる。だから、そうやっていっては駄目だから、やっぱり3クラス以上、5クラス以上の学校だとちゃんとそういう、ある程度小さい学校よりも動ける先生が配置できます。だから、結論からいいますと、やっぱり1小1中しかなくなっちゃうのかな、まして、10年後では。という話です。

職場体験学習をやったのはこの稲敷市が一番最初です。スキー学習も一番最初にやったのは稲敷市の学校です。ある先生はいかだを組んで沼を下って、情操教育をやったとか、やっぱりそれはみんないい意味でチーム組んだり、それから刺激し合って、教育実践してきた。小さい学校では、そこらへんなかなか難しいと思います。これが私の意見です。長くなりました。よろしくをお願いします。

会長：ありがとうございました。ほかにご意見ございますでしょうか。

委員：今日のゴールはという質問で、この委員会でパターンを出すってさっき決まったような気がしましたが、それに対してアンケート調査を取るのであれば意味がないという意見が出て、でも、そのアンケート調査結果に必ずしも左右されないということは、今日多数決で最後、委員会として推すパターンを決めるのかなと思いましたが、そうではないんですか。

事務局：ご質問にお答えします。事務局としてはそういうふうに考えていましたが、さまざまな意見が出まして、今日そこまで行き着かないことが分かりましたので、今後のスケジュールを含めて考えていきたいと思えます。

委員：やっぱり、まさか10年越しに考えているとは思っていなかったもので、ほんとに先ほどお話があったように、消去法で10年かかるんだったら1中・1小しかないの、この委員会でそれで行くというのはできないのでしょうか。

会長：そうなってくると、アンケート調査を取る意味は全くないということになります。ここで決めてしまえば。どうでしょうか。決めてしまえますか。

委員：今、いろいろな有識者の方の話を聞ける私たちだから理解できる内容であって、このアン

ケート調査は、すごくいいと思いますが、やっぱりこういう生の話が聞けないでアンケート調査っていうのは難しいと思います。だから、やっぱりプロの方が集まって、もう1中1小で押していくしかないと思います。それでも10年かかるんですか。そうしたらもう早く、全部全部前倒しにしていかないと、この計画の意味がなくなってしまうと思いますが、皆さまいかがでしょうか。

会長：ただいまのご意見について、どうでしょうか。委員の皆さまからも結構です。何かございますか。

委員：10年スパンで考えられているということでしたが、現在も子どもが少なくて逼迫している学校もあります。複式学級を取り入れているようなところもあるので、10年スパンで考えていたら、その前に段階を踏んで、対策を取っていったらどうですか。

事務局：お答えいたします。10年以上のスパンで考えていると、さっき私のほうからお話ししましたが、その前におっしゃるとおり、あずま北小学校は今、2、3年生が複式学級で再来年度には2、3、4、5まで複式学級になってしまいます。それについては、あずま北小学校の保護者、また、あずま北小学校に入学されるお子さんをお持ちの保護者の方とこれから話し合いをして、もしかするともっと早い段階で近くの小学校に統合するようになる可能性もあります。ですので、ほかにも小規模校になっている小学校、中学校がありますので、それについては、これもアンケート調査に書かせていただいています、統合するタイミングを複式学級の発生した時とか、1学年に1クラスしかできなくなった時とか、できるだけ早くというような形でタイミングも問わせていただいています。そういった意見も参考にしながら進めていければと思っております。

委員：分かりました。ありがとうございます。

会長：ただいまの回答によると、アンケート調査は実施するでよろしいでしょうか。

事務局：アンケート調査は実施させていただきたいと思っておりますが、今、この場で決まらなくてはどうかというご意見をいただいたのですが、それこそ乱暴なペースで行ってしまうと思うので、もう少し検討して、この次の会議はもうちょっと踏み込んだ事務局の案を出させていただきたいと思っております。今日のところはこのへんでということでどうでしょうか。

委員：おっしゃるとおりですが、ほんとにこのグラフで見ると、10年後に1校ずつって答えが出ちゃってるのに、こういう詳しい話を聞けない保護者にアンケート調査を取って、また段階を踏んでいく必要がありますか。将来のことを考えてるから、こういう1中1小がいなくなってしまうと思いますが、それは乱暴ですか。

事務局：おっしゃるとおり、10年後の子どもの数を考えた時には、1小1中がほんとに適正規模な学校だと思います。とはいうものの、稲敷市がこれだけ東西に20キロ以上ある地形を考えて、本当にそれでいいのか、もっとじっくり考えるべきだと事務局としては思っております。

委員：もう9時になります。いろんな意見が今日出まして、実は始まる前に会長と一緒に今日どんなことをやっていくかという打ち合わせをしました。大体想定ができました。教育委員会のお話を聞いて、皆さんから何を指したいのか。この委員会に何を求めているかが全く多分委員の皆さんには伝わっていない部分もあり、おっしゃるとおり、パターン的には

10年後に1校だろうというのも大体見えていますが、アンケート調査もやりたい。何のために会議をしているのかがなかなか見いだせない中、いろんな意見が本日出ているんだろうと思います。既に6時半から始まって今日もこのような状態です。この委員会に何を求めて、最後まで委員会の決を採るために進めていきたいのか、もっと計画を出してしっかりとしたもので皆さんの意見を聞きたいということなのか、このままだと色々な意見が出て収拾がつかないと思いますので、委員会に何を求めて、今後進めたいのか、もう既に内容的には皆さんも分かったように1校だろうという想像がついてきたと思います。それでも委員会を開いていく、何を求めていきたいのかしっかり提示をして、今後のスケジュールも組んでいただかないと難しいのかなと思いますので、今日もこのようになることは想定の中、私も意見をしましたので、そのあたりをしっかりと皆さんにお伝えして、今日は閉じたらどうかと思います。

会長：ありがとうございます。

事務局：ありがとうございました。今おっしゃったとおり、次の会議は長期の青写真でそれまでにどういうふうにしていくというある程度具体的な案をお示しして意見を聞きたいと思います。事務局で想定していたスケジュールよりは大幅押ししてしまっていますが、スケジュールの再調整をさせていただき、お諮りしたいと思いますので、よろしく願います。

委員：日程はもっと早めに案内できませんか。例えば、今回の会議の終わりに次回の日程を決めるということは無理ですか。

事務局：本来でしたら、この場で次の日程を決めるのがよいのは重々承知しております。この会議で検討させていただくことが多岐にわたっておりますので、できるだけ早く日にちを決めて通知は差し上げたいと思いますが、ちょっとどれぐらいの時間がかかるか分からないので、この場では決めかねます。申し訳ないのですが、ご理解をお願いします。

委員：案を2～3週間前の段階で委員に送ってもらうことも難しいですか。

事務局：今回も2週間程度前に送らせていただいたのですが、それでは遅いでしょうか。

会長：日程については、なるべく早く資料を送っていただきたいと思います。それでよろしいでしょうか。

事務局：資料については、直前になってしまったかもしれないので、資料を整えるのに時間がかかるようでしたら、先に開催の通知だけは早めに送らせていただいて、後から資料を送らせていただく形をとりたいと思います。

会長：それでよろしいでしょうか。かなり時間も押して、9時を過ぎましたので、できればこのへんで今日は閉じたいと思いますが、ちょっとまだ言い足りないということがありますでしょうか。

(意見なし)

3 閉会

会長：本日予定された審議は全て終了いたしました。皆さま、ご協力ありがとうございました。

一同：ありがとうございました。